

～法人マーケット開拓に役立つ～ ①学習塾 篇 1

業種別リスクマネジメント対処法

株式会社アルマックインシュアランスパートナーズ

http://www.almac-ips.co.jp 代表取締役 松本 一成



◆株式会社アルマックインシュアランスパートナーズ

平成20年7月に営業開始。法人マーケットに対してリスクマネジメントを切り口とした提案を行い、業容の拡大をしている。リスクマネジメントのコンサルティング及び教育・研修事業を得意とし、理念を共有する代理店と積極的にノウハウシステム及びブランド共有を進めており、昨年1年間で10代理店が支店参画し収入保険料は1年間で損保ベースで10億円の増加を達成。

◆松本 一成 (まつもと・かずなり) プロフィール

1994年 関西学院大学経済学部卒業後、株式会社三和銀行、安田火災海上保険株式会社(現:損害保険ジャパン)を経て独立、現在は同社の代表以外に社会保険労務士法人やリスクマネジメントの教育・研修事業を扱う株式会社日本リスク総研の代表等も兼任。シニアリスクコンサルタント、社会保険労務士、NPO法人リスクマネジャー&コンサルタント協会認定講師

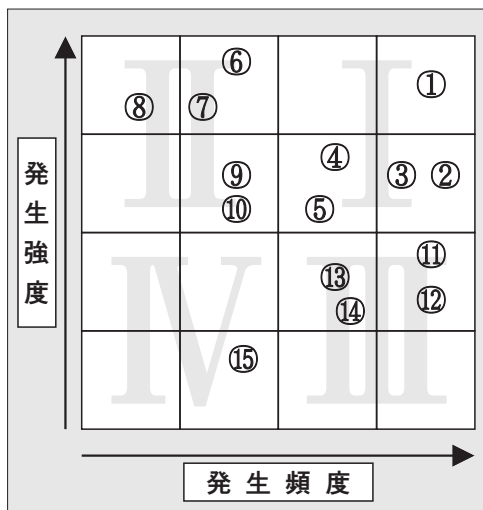
学習塾のリスクマネジメント

◇学習塾の特徴

近年、学校におけるゆとり教育や教師の質が取りざたされており、学校に対する信頼感が揺らいでいるため、学習塾への期待は高まる傾向にあります。業界の特徴としては、①資格や許認可手続きが不要で始め易い、②そのため小規模な学習塾が多く、従業員9名以下の事業所が全体の80%以上を占めています。最近の傾向としては、③1教室20～30人の生徒を一人の講師が教える集団指導型から生徒1～3人を講師1人で教えるような、個人個人の特性にあった個別指導型が増えています。また、④少子化の影響により市場縮小が進んでおり、大学等の「全入時代」を迎えたことで推薦による入学が増していることから、生徒の獲得競争は今後も激化が予想され、最終的には大手塾がM&Aや業務提携等を行うケースが増えると考えられます。

◇リスクマップ例

- 【I】①少子化
 - ②ITの進化による新しい業態
 - ③新規業者の参入
 - ④情報漏洩
 - ⑤講師の質の低下
- 【II】⑥講師のセクハラ等の事件事故
 - ⑦交通事故(通塾専用バス)
 - ⑧火災
 - ⑨天災(地震・台風等)
 - ⑩人気講師の引き抜き
- 【III】⑪進学実績の低迷
 - ⑫モニターピアレンツ
 - ⑬塾内でのケガ等(有過失)
 - ⑭生徒同士のトラブル
- 【IV】⑮防災事故



◇学習塾の特徴的リスク

学習塾が将来的に抱える重大リスクとしてはまず①少子化が考えられます。日本全体及び地域の少子化により生徒の確保が難しくなる可能性が高く、学習塾の競争激化をさらに進めることになるでしょう。また②ITを活用した新しい業態(ビデオ講義や通信講義の拡大による営業範囲の拡大)が増加し、地域の垣根を超えた競争が加速していく

ことも考えられますし、資格や許認可手続きが不要であるため、③新規業者の参入により売上減少が発生してくる可能性も無視出来ません。突発的な事件・事故で影響力の大きなリスクとしては、⑥塾講師によるセクハラ・暴力事件や⑦通塾バス等の交通事故、④生徒の成績や属性情報に関わる情報漏洩等がありますが、いずれも甚大な風評被害を間接的にもたらす可能性が高いと考えられます。

◇具体的リスク対策

少子化が地域単位で進行すればするほど、営業範囲を広範囲に広げていく必要性が高まるため、ITを活用したマーケティングや顧客管理が必要となってきますし、地域ごとの出生数と転出・転入の実態を把握しながら戦略を考えていく必要があるでしょう。地域によっては、公立の小中学校と連携する等で生徒を確保するケースが増えているようです。また、将来的にはITを活用した通信教育や、データベースに基づいた個別指導等の新しいビジネスモデルを持った新規業者の参入が発生する可能性があることから、差別化要素を鮮明にするため、独自性のあるオリジナルカリキュラムや講師の育成を通して実績で差別化することも必要です。

基本的に、学習塾は前金制であり、入塾時には入塾金があるため、資金繰り的には比較的楽な業態であることから、進学実績が低迷する等のケースに備えて、引当金や積立金を蓄えることが必要と思われる。突発的に資金繰りを狂わせる要素としては塾内で発生する事件・事故が考えられます。特に教師が加害者となり、生徒が被害者となるセクハラやパワハラ、暴力事件等は大きなダメージにつながるため、注意が必要です。小規模な塾においては、一人の講師、一人の生徒の影響によって大きく生徒数が増減することも考えられるため、講師採用時・生徒入塾時のチェックをしっかりと行う必要があるでしょう。

◇学習塾における保険活用

学習塾における主な経営資源は、講師と過去の実績であることから、保険等でカバー出来るリスクは限られます。保険対象となる経営資源としては建物や人材がありますが、地震や火災の場合でも生徒と講師が健在であれば事業継続を左右する問題にはならない場合もあると考えられますし、労災事故等も大きな事故につながる可能性は低いと考えられます。地震等のリスクにおいては、むしろ緊急地震速報等を設置し、生徒の安全性を強調した方がイメージアップにもつながりますし、事故発生時の売上減少リスクを減らすことにもつながります。左記のリスクマップでも分かるように、重大リスクは保険でカバー出来ないリスクが多く、いざという時のために引当金を積んだり、利益や自己資本を計画的に蓄えていくことが必要です。塾総合保険などの活用によって塾特有の突発的なリスクに対する対策は必要ですが、計画的な資金計画に基づく保有対策が非常に重要になってくると考えられます。

《参考》【塾総合保険】

■学習塾経営者の賠償責任

学習塾の施設内で生じた事故により、生徒や第三者が傷害を被ったり、財物を壊してしまった際に学習塾経営者が法律上の賠償責任を負担することによる損害に対して保険金を支払います。

■生徒の賠償責任(生徒が起こしたもの)

授業中などの学習塾の管理下において生徒が他の生徒や第三者に対し、けがをさせたり、財物を壊してしまった際に法律上の賠償責任を負担することによる損害に対して保険金を支払います。

■生徒のケガの傷害補償

- 授業中等、学習塾の管理下中に生徒が事故によるケガをした場合、保険金を支払います。
- 学習塾への往復途上に生じた事故によるケガをした場合、保険金を支払います。